

令和4年度（2022年度）公社等経営評価書

公益財団法人青森県フェリー埠頭公社

公益法人等用

1 法人の概要

基準年月日
(基本情報に係る基準日) 令和4年7月1日

法人名	公益財団法人青森県フェリー埠頭公社	所管部課名	県土整備部港湾空港課
代表者職氏名	(職名) 代表理事 (氏名) 藤田 昇	設立年月日	昭和47年12月7日
所在地	〒 038-0002 青森市沖館二丁目11番1号	電話番号	017-781-7131
HPアドレス	http://www.aomori-ferry.or.jp	FAX番号	017-781-7132
e-mailアドレス	fsoumu@aomori-ferry.or.jp		

資本金・基本金等

資本金・基本金等	20,000 千円
(うち県の出資等額)	20,000 千円
(県の出資等比率)	100.0 %

設立の目的・事業の目的

青森港及び八戸港におけるフェリー埠頭及びフェリー埠頭の円滑な利用を確保するために必要な施設の管理を総合的かつ効率的に行うことにより、青森港及び八戸港の機能強化を図り、もって地域社会の健全な発展及び国民生活に不可欠な物資、エネルギー等の安全供給の確保を図ることを目的とする。

主な出資者等の構成（出資等比率順位順）

氏名・名称	金額（千円）	出資等比率（%）
1 青森県	20,000	100.0
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

経営目標

経営理念

1. 利用者のためフェリー埠頭の機能強化と円滑な利用の確保
2. 財務内容の健全性と公正・公明な経営体質の確保
3. 職員が明るく、働きがいのある職場づくり

経営目標

1. 事業の公共性、公益性の維持と利用者のニーズに対応した埠頭施設の提供
2. 総合的かつ効率的な埠頭施設の管理による持続的な健全経営
3. 内部統制及びコンプライアンス態勢の整備による組織運営の健全化と公正・公明な事業活動の推進
4. 人材の育成と定員の適正化及び業務の合理化の推進
5. 強固な財政基盤の構築と経営の安定化

主要事業の概要

主要事業	決算額（千円、%）						公益・収益等の別	補助金の有無	受託収入の有無	再委託の有無
	令和元年度 (2019)	割合	令和2年度 (2020)	割合	令和3年度 (2021)	割合				
事業1 青森港フェリー埠頭事業 (内容) 青森港のフェリー埠頭及びフェリーの円滑な利用を確保するために必要な施設の建設、賃貸及び管理運営	345,844	63.80 %	315,055	62.83 %	307,291	61.59 %	公益	無	無	無
事業2 八戸港フェリー埠頭事業 (内容) 八戸港のフェリー埠頭及びフェリーの円滑な利用を確保するために必要な施設の建設、賃貸及び管理運営	196,250	36.20 %	186,367	37.17 %	191,620	38.41 %	公益	無	無	無
事業3 (内容)		%		%		%				
上記以外		%		%		%				
全事業	542,102	100.00 %	501,422	100.00 %	498,911	100.00 %				

組織の状況

区分	令和2年度 (2020)		令和3年度 (2021)		令和4年度 (2022)		前年度 増減	増減理由
	県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB		
役員	常勤	2	1	2	1	2	1	
	非常勤	4	1	6	1	6	1	
	計	6	2	8	2	8	2	
職員	常勤	10	3	10	3	10	3	
	非常勤	2		2		2		
	臨時職員							
計	12	3	12	3	12	3		

役員平均年齢	64 歳
役員平均年収	5,883 千円

職員平均年齢	41 歳	職員の 年代別構成	20代	30代	40代	50代	60代～	勤続年数（平均）
職員平均年収	5,222 千円		2人	1人	1人	3人	12年	

※常勤役員のみ

※常勤職員のみ（ただし、職員平均年収及び勤続年数はプロパー職員分）

2 財務の状況

(単位：千円)

項 目		令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕
収支等の 状況	経常収益	635,267	599,379	633,709	34,330	
	経常費用	542,102	501,422	498,911	▲ 2,511	
	当期経常増減額	93,165	97,957	134,798	36,841	就航船舶代替大型化に伴う棧橋等賃料の増加による
	当期経常外増減額	▲ 5,937	9,725	22	▲ 9,703	貸倒引当金繰入率を法定繰入率に見直しによる
	当期一般正味財産増減額	87,228	107,682	134,820	27,138	経常収益の増加による
	一般正味財産期末残高	5,149,069	5,256,751	5,391,571	134,820	
	借入金残高	209,188	148,363	96,000	▲ 52,363	借入金償還計画による
資 産	資産	5,649,593	5,750,594	5,800,178	49,584	
	負債	480,524	473,843	388,607	▲ 85,236	青森県借入金の減少による
	正味財産	5,169,069	5,276,751	5,411,571	134,820	
県費等の 受入状況	補助金					
	事業費					
	運営費（人件費含む）					
	受託事業収入					
	負担金					
	交付金					
	貸付金					
	無利子借入金による利息軽減額 （長期プライムレートによる試算額）	449	283	97	▲ 186	借入金償還計画による
	減免額（土地・施設等使用料等）					
	債務保証残高					
損失補償残高						

(単位：%)

財務分析指標		令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕
財務 構造	正味財産比率	91.49	91.76	93.30	1.54	
	経常比率	117.19	119.54	127.02	7.48	
	総資産当期経常増減率	1.65	1.70	2.32	0.62	経常収益の増加による
	県財政関与率	0.07	0.05	0.02	▲ 0.03	借入金償還計画による
	補助金収入率					
	受託等収入率					
効 率 性	管理費比率	6.62	7.27	7.52	0.26	
	人件費比率	13.73	15.25	13.41	▲ 1.84	
財 務 健 全 性	流動比率	754.24	478.63	1,043.48	564.86	青森県借入金の減による流動負債の減少による
	借入金比率	3.70	2.58	1.66	▲ 0.92	借入金償還計画による

3 経営評価結果等への対応状況

これまでの経営評価結果等 (改善事項等)	対応状況 〔法人記入〕	左に係る県所管部局の意見・評価 〔県所管部局記入〕
埠頭利用者のニーズと柔軟性をもった機動的なサービスの提供状況について	毎月、埠頭利用船社等と運営連絡会議を実施し意見交換により利用者のニーズを把握しており、埠頭の整備や安全確保、利用者へのサービス提供や情報提供をしている。	利用者の安全確保を最優先としながら、引き続き、利用者のニーズに見合った利便性の高いサービスや情報提供を行うこと。
大規模災害発生時等、広域的に重要な役割を果たすための、平時におけるBCP（業務継続計画）の再点検や訓練の実施状況について	BCP（事業継続計画）は青森県BCPや青森港BCP、八戸港BCPの見直し状況等を確認しながら継続的に見直しを行っている。日頃から施設の点検を実施し、関係者との連絡を密にし情報共有を図っている。津波等の災害避難訓練を定期的に行っている。	BCPの継続的な見直し、施設点検に万全を期するとともに、万が一の災害に備えて定期的に訓練を実施すること。
外国人利用者の防災対応力向上に資するような多言語化対応の取組状況について	施設内の案内看板等は英語ほか多言語及びピクトグラムの併記を採用し情報伝達している。窓口には翻訳用タブレットを設置し日本語不理解者への多言語音声翻訳アプリによる情報伝達対応をしている。埠頭利用船社等と協力し防災訓練を定期的に行っている。	入国制限の緩和など訪日外国人の増加が見込まれることに鑑み、外国人利用者の安全確保に万全を期するため、多言語化をはじめ案内及び情報提供機能を充実させるとともに、万が一の災害に備えて定期的に訓練を実施すること。

4 経営評価指標

(1) 法人自己評価

評価項目	対象指標 評点数	法人評価		(参考)	自己評価〔法人記入〕 (経営概況、経営上の課題・対策、得点率の増減理由等)
		評点数	得点率	前年度得点率	
目的適合性	16	16	100.00	100.00	当公社の埠頭事業は、公共的・公益的目的と役割を有しており、現在の社会経済情勢下においても存在意義のある法人である。 また、事業運営にあたっては、行政の補完機能を果たしており、県行政及び県民ニーズに対応している。
計画性	33	32	96.97	93.94	埠頭施設の長寿命化を図るため予防保全型の計画修繕を実施すべく、施設の維持管理計画を策定し、同計画を反映した中期計画に基づいて健全経営に取り組んでいる。 中期計画の検証及び見直しを行い埠頭施設の長寿命化を図るため計画的な施設修繕を実施している。
組織運営の健全性	40	39	97.50	97.50	役職員の職務の執行が理事会、全体会議の開催で効率的に行われている。
経営の効率性	26	25	96.15	92.31	各種研修等を通じ職員のスキルアップに取り組んでいる。 また、経常費用全般にわたって緊急性、費用対効果の視点から見直しを行い、節減に取り組んでいる。
財務状況の健全性	23	21	91.30	91.30	収支の黒字は確保されており、持続的・安定的な法人の運営を行っている。 また、平成13年度以降は県からの借入は無く、償還計画に基づき償還している。 財務の健全性は十分に図られている。
合計	138	133	96.38	94.93	

(2) 県所管部局評価

評価項目	項目別評価		コメント〔県所管部局記入〕
目的適合性	◎	対応等は良好	フェリーは本州と北海道を結ぶ公共交通機関として人的交流や物流を促進する貴重なインフラであることから、今後とも利用者のニーズを踏まえた利便性の高い取組を実施すること。
計画性	◎	対応等は良好	コロナ禍における社会経済情勢の変化を捉えた取組を効果的に企画・実施するため、PDCAサイクルを通じた事業運営や経営改善に引き続き取り組むこと。
組織運営の健全性	◎	対応等は良好	引き続き、適正な法人運営を行うとともに、内部統制を強化すること。
経営の効率性	◎	対応等は良好	社会経済情勢の変化や費用対効果も考慮しながら、経営の更なる効率化・安定化を図ること。
財務状況の健全性	◎	対応等は良好	引き続き、財政の健全化に努めること。

5 総合評価

総合評価		コメント〔県所管部局記入〕 (改善事項等)
A	概ね良好	フェリーの航走実績は、車両、旅客ともに前年度実績を上回り、本州と北海道を結ぶ基幹インフラとしての機能が安定的に確保されており、八戸～室蘭航路の休止に伴う棧橋等賃料の減収はあったものの、修繕計画・委託計画の見直しなど経常費用の節減により収支バランスが保たれており、経営基盤は安定しているものと評価している。 フェリーは、本州と北海道との人的交流や物流を促進する基幹インフラであり、大規模な災害発生時には広域的に重要な役割を果たすことから、定期的にBCPの点検や訓練の実施に取り組むとともに、外国人利用者の防災対応力の向上に資するよう多言語化対応等に継続して取り組むことを期待する。 上記のとおり、経営上の課題は特に認められないことからA評価とする。